

# 太祖神樂

立正新聞  
福岡大賞



この町にある若杉地区に

の麓にある若杉地区に  
鹿嶋、武御名方、  
細女、猿田彦、  
火之闘降、前駆、  
豊玉姫、天磐戸、  
天磐戸（思兼、海神、  
根、鉏女、手力男）、  
國降伏（武内、四神、  
豊姫、海神）の13演目か  
ら4演目のみが行われる  
が、近年になり3演目が  
復活し、現在では7演目  
が行われています。

手に鈴を持ち神を讃えて  
優雅に舞いますが、臺目  
舞、四剣舞は素早く荒々  
しいのが特徴です。

特に4人で舞う四剣舞  
は、足を踏み鳴らし、中  
央に寄っては剣を打ち合  
わせ、四方へ駆け離れる  
所作を繰り返し、掛け声  
に合わせ激しく動き舞い  
ます。

蛭子舞は、恵比寿の

面をつけた舞手が釣り竿

で、祈願成就に訪れて奉

納されたお酒などを次々  
と釣り上げ、最後にタイ

り、後方には幕を張り、  
白衣、袴に鳥帽子を被つ

た楽人による太鼓、横笛、  
ジャンバルを囃子として、  
柳舞は右手に柳、左

磐戸開きは、複数の舞

伝わる太祖神樂は、1596（慶長年間）に福岡藩主黒田長政が、宗教政策の一つとして各郡ごとに神職による神樂座を組織させたことに始まります。明治時代を迎えると、神樂座は解体されました。

その後、第2次世界大戦などの影響により、神樂消滅の憂き目に遭いました。しかし、これを危惧した佐々雪に直接教えを受けた者が、1952（昭和27）年に近い日曜日と10月16日に行われました。現在は、4月14日に近い日曜日と10月16日に行われます。

和27（昭和32）年には福岡県指定無形民俗文化財に指定され、1960（昭和35）年には福岡県指定形文化財に1976（昭和51）年には福岡県指定無形民俗文化財に指定されました。現在は、4月14日に近い日曜日と10月16日に行われます。



出典：第49回九州地区民俗芸能大会記録集から（文章は一部変更しています）。

人が面を付け、天磐戸の物語を演じます。

人が面を付け、天磐戸の物語を演じます。

人が面を付け、天磐戸の物語を演じます。